
科学と魔神が交差するとき 歯車は動き出す!

ヤマト

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

科学と魔神が交差するとき 歯車は動き出す！

【Nコード】

N5703Q

【作者名】

ヤマト

【あらすじ】

～ここは学園都市～

私、上条当麻は毎度の事不幸である

5年前の飛行機墜落事故以前の記憶をなくし、学力を失った上条さんはほとんど補習の日々

去年は高校に入れたまでは良かったが魔術だの科学だのと、いろんな事に巻き込まれ、ろくに高校生活を送れなかった
今年ぐらい良い高校生活を過ごしたかったのだが…

Ep0・0（前書き）

初めまして！

初投稿です〇（＾－＾）〇

最初は過去編からです

（五年前）

私、上条当麻は家族と一緒にイギリス旅行に行く途中だ。

「あらあらお父さんがあんなに、はしゃいじゃって♪よっぽど嬉しいのね」

私、上条当麻はいつも不幸な人間だがスーパーの福引きで奇跡的に一等を当てたのだ。

「海外旅行なんて父さんも初めてだから、わくわくしてるぞ」

「あらあら♪当麻さんも楽しみですか？」

「えっ？…あ、ああ…」

私、上条当麻は疑念を抱いていた。

（……………おかしい。今の所何ら問題ないぞ！？

ないと思っていたパスポートも二日前に見つかるし

手荷物検査でも引っ掛からなかった…

これは絶対裏がある！）

「……………」

「…あらあら、当麻さん？顔色が悪いですよ？どうかされましたか」

「えっ！？いや…上手く行き過ぎだなんて…」

「あらあら♪当麻さん、緊張なさってるのですか？当麻さんがいくら不幸だからって飛行機の上じゃ何も起こりませんわよ♪」

「そう…だよな。うん、そうだよ！よし、上条さんはイギリスに着いたらエンジンヨイしまくるか！」

「あらあら当麻さんたら♪」

ピンポンパンポン

『まもなくAN853はイギリスに到着します。安全のため、シートベルトの着用をお願いします』

……………その時だった。

ドカーン！！

「何だ！？」

「後ろの方で爆発が起こったぞ！」

突然の事で、乗客はパニックに陥った。

「落ち着いてください！只今パイロットの者と連絡を……………」

……………えっ！？エンジンタンクがやられて、もうもたない！？」

「くっそ！何にも出来ないのかよ！？」

「あらあら、墜落してしまうのかしら？」

「なんで母さんはそこまで冷静なんだよ！！しかも俺のシートベルト外れないから身動き取れないし！

もう、不幸だああああ！」

・
・
・
・

結局、飛行機は近くの山に墜落した。

「……………いつ……………つ……………ん？」

そこには

「…なんだよ…これ！？」

機体は爆発と墜落の影響で木っ端みじんとなり、木々は燃え、乗客はほとんど倒れていた。

そう、当麻はどうやら奇跡的に軽傷で済んだのだ。

「いくら上条さんが不幸だからってこれはないだろ！？……………そうだ！母さん達を探さないと！」

Ep0・1（前書き）

智春と操緒目線です（＾Ｏ＾）

キャラ崩壊が激しくなってると思いますm（――）m

「…………ト…モ?」

「…………」

「……ねえ起きてよ!」

「……………」

「……………お願い!返事してよ!」

・

・

・

・

・

・

「一方当麻ビジョン」

「大丈夫ですか?しっかりしてください!」

「……………」

「くそっ!ダメか…」

当麻は誰か動ける人を探していた。もちろん家族の安否を心配しながら

…その時

『ドオオオン』

と、とても大きな音がした。

「何だ!？」

と当麻は全力で音のした方に走った。

~~~~~

「…よし、これで荷物は全部揃ったな」

僕は夏目智春。中学校の入学を間近に控えていた。今日はイギリスにいる了解の所に挨拶しに行く。

「トモ〜!どう?似合う?」

こいつは水無神操緒。僕の親戚で同じ年だ。今は、分け合って同じ寮で暮らしている。

「ミサオはまだまだ子供っぽいな(笑)」

「ちよつと〜!それどついう意味よ〜!」



ピンポンパンポン

『まもなくAN853はイギリスに到着します。安全のため、シートベルトの着用をお願いします』

・  
・  
・  
・

「もうイギリス！？なんか早くない？」

「そりやずっとケンカしてたからな」

そう、ケンカだけでこの数時間を過ごしたのだった。おかげで、智春はひどく疲れていた。操緒の方は平気のようだ。

「ほらトモ！ちゃんとシートベルト着けないと！」

「わかったよ……」

「……」

「……ねえ、トモ」

「ん？」

「……パパ達喜ぶかな？」

操緒はどこか不安に言った。彼女の親は早期に亡くなっており、身寄りが無く親戚である智春家に来たのだった。なので智春の親の本当の子供じゃないのだ。

「そりゃそうだろ！二年ぶりだしな。しかも制服姿だから父さんたち喜ぶよ！」

「…そうだよね！へへっ」

…その時だった。

『ドカーン！！』

「キャッ！」

突然、機体の後ろで爆発が起こり乗客はパニック状態に陥った。

「トモ、どうしよう！」

操緒も突然の事で乗客同様パニックっていた。

「え、え〜っと…」

「トモ！」

もちろん智春も同じく…

「大丈夫だって、パイロットの人がなんとかしてくれるって」

「なんとかってさ…」

「それに、どんな事があるうと僕が操緒を守ってみせる！」

智春はここ一番のカッコつけたセリフを言った。でも、操緒は

「…………だよ」  
「えっ？」

深刻な表情で

「いやだよ！もし私が生き残ったとしても、トモが死んだら意味ないでしょ！？」

と言った。智春は操緒がこんな真剣に考えてるとは思わなかった。

「…………ゴメン……」

「トモが私を助けてくれるなら、私もトモを助けるよ。」

…………大丈夫、トモには操緒がついてるから。」

「ミサオ……」

…………だが結局、飛行機は近くの山に墜落したのであった

「……………」

「…………っ……………は……？」

どうやら気がついたのは操緒の方だ。

「トモは…………？トモを探さないと……！」

操緒は必死だった。周りの状況よりも、操緒は智春の事で頭がいっ

ばいで、無我夢中で…

数分後、操緒は機体の一部に埋もれた智春を見つけた。

「……トモ……？」

「……………」

「……ねえ！起きてよ！」

「……お願い……返事……して……よ……！」

倒れている智春を前に、操緒はその場で泣き崩れた

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5703q/>

---

科学と魔神が交差するとき 歯車は動き出す！

2011年2月5日00時17分発行